【自然環境】　人と自然が共生し、豊かな自然環境を未来へ引き継ぎます

⑶ 野生生物の保護管理

現状と課題

本市は、周囲が緑深い山岳・丘陵に囲まれており、石狩川水系空知川や芦別川が流れ、黄金水松や三段滝、夫婦滝などの景勝地も多数ある中で、多くの野生生物が生息しています。

植物に代表される保護活動としては、本市のシンボルとして市の南南東部に位置する崕（きりぎし）山（１，０６６．２ｍ）には、高山植物の中でも崕山だけにしか生育していないキリギシソウのほか、ホテイアツモリやオオヒラウスユキソウ、キバナノアツモリソウなど、日本では数少ない地域でしか見られない希少植物が生息していましたが、登山者による高山植物の踏みつけや、心ない人による盗掘が原因で山が荒廃し、希少植物も激減しました。

この状況を食い止めるため、国、芦別山岳会、芦別市などにより「崕山自然保護協議会」を設立し、山の植生回復を目指して、入山制限の取組や学習登山会、巡視活動を行ってきました。

その後、少しずつではありますが、希少植物が回復するなどの効果が見られたことから、無期限の入山制限を続けており、現在に至っています。

動物に関しては、昔から野生動物の宝庫であり、ヒグマ、エゾシカ、キツネ、ウサギ、タヌキなど多くの種類が生息していますが、近年、ペットから野生化したアライグマなどの外来生物やエゾシカが増え、中山間地域を中心に農作物などへの被害が深刻な問題となっている中で、平成２３年度に農林業関係団体が設立した「芦別・赤平有害鳥獣被害防止対策広域連絡協議会」により、捕獲体制の充実や被害防止対策に取り組んできましたが、近年、狩猟者の高齢化が進んでいることから、担い手の確保に努めていく必要があります。

【有害鳥獣駆除の実態】

区　分	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度
エゾシカ	６１４頭	６００頭	６２９頭
キツネ	４４頭	３４頭	５２頭
ヒグマ	９頭	６頭	８頭
アライグマ	３６６頭	５８１頭	５７２頭

【自然環境】　人と自然が共生し、豊かな自然環境を未来へ引き継ぎます

基本目標

- 野生生物の生息しやすい環境を守ります
- 自然と共生し、豊かな自然環境づくりに努めます
- 特定外来生物の駆除に努めます

市の取組

市のシンボルである崕山の保全については、令和元年で２１年目を迎える入山制限により少しずつ回復が進んでおり、今後も関係機関と連携を図りながら、希少種植物はもちろんのこと、かつての山に一日も早く戻れるよう活動を続け、「崕山自然保護モニター登山会」に参加する方々に、本市の取組が全国に先駆けたモデル（自然保護のあり方のひとつ）として自然保護の輪が広がるよう啓発していきます。

また、野生動物の保護、有害獣としてのエゾシカなどの駆除とは相反する部分もありますが、個体数調整もエゾシカ保護の一環として人と自然とが共存することができる環境づくりを目指します。

① 崕山の自然保護を通じ自然との触れ合い、その大切さを学ぶ機会として、野生生物の保護管理に関する啓発活動を進めます。

② 野生生物による農林業などへの被害防止対策を進めるとともに、自然と野生生物との共存対策を進めます。

③ 特定外来生物である、アライグマの駆除を進めます。

市民の取組

自然観察会や環境学習会などを通して積極的に自然と触れ合うことによって、市域に生息・生育する野生生物と共存する大切さを学びます。

事業者の取組

開発行為においては、野生生物の生息・生育の場である自然環境に配慮し、野生生物が生息できる環境をつくります。

【エゾシカ】

【キリギシソウ】